



激しく倒壊した家屋が目の前に広がる



一面泥に埋め尽くされた街



大量のがれきの中、片付けに没頭する女性



津波にフェンスをなぎ倒された自転車道



大量のがれきが幹線道路をふさぐ



打ち上げられた漁船の下で惨状を見つめる人々



なすすべもなく、頭を抱える人



津波が突き抜けていった家屋



がれきをかき分け、捜索をする消防隊員

津波に破壊された街

市災害対策本部では、夜明けとともに市内の海岸地域を中心に被害状況の調査を始めた。するとそこには、目を疑うような、信じられない光景が広がっていた。

街は泥やがれきで埋め尽くされ、倒壊した家屋や泥にまみれた車が道路をふさぐ。その場にぼうぜんと立ちすくむ人、頭を抱える人。半ば諦め顔で、片付けを始める人――。「誰かいますかー」倒壊した家屋の奥に向かって、声を掛ける消防隊員。建物がなくなり、大きく開けた街のすぐ向こう側には、静かな海が広がっていた――。



翌日早朝、廃墟のような街を歩く

とにかく命があって良かった、それだけです



梅花すみ子さん
(横根)

飯岡の灯台まで何も持たずに、それこそ吹っ飛んで逃げました。夕方帰って来ようと思いましたが、途中、泥やがれきがいつぱいで、重なった車なんかもあって、到底歩いて戻れる状態じゃありませんでした。その日はそのまま、飯岡小学校へ泊まりました。

翌朝、明るくなってから、長靴を履いて、家に戻ってきました。そして、たまたま何もかもなくなっていて、本当に地獄だと思いました。頭が真っ白、どこから手を付けていいか、2、3日は何もできませんでした。

片付けは親戚に手伝ってもらって、毎日泥んこになりながらやりました。1か月じゃ、終わらなかつた。家の1階は波が突き抜けて、基礎だけになってしまいました。一応修理はしたものの、砂が家中の隙間に入り込んで、今でも取り切れていません。今は何とか暮らしています。とにかく命があって良かった。それだけです。本当にもう、一生忘れられません。